

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290200318		
法人名	株式会社日本ライフデザイン		
事業所名	花と幸せ家族		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町154-5		
自己評価作成日	平成31年2月04日	評価結果市町村受理日	令和元年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成31年3月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

食を通しての自立支援に力を入れています。  
ご利用者様と一緒に食材の買出しから調理・片付けまで一緒に行っています。  
また敷地内の庭にて家庭菜園を行い、野菜の成長から収穫を通し季節を楽しんでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- 京成線八千代台駅から車で15分、千葉市郊外の閑静な住宅街にグループホーム専用にて建てられた2階建て施設です。敷地が比較的広く、十分な駐車場と広い庭園(花壇、野菜畑、梅・柿の木等に)、隣接地の立派な桜の木とも相まって、利用者が四季を楽しめる環境にあります。建物内も全体的に日当たりが良く、清潔で、ゆったりしており、利用者が落ち着いて居心地よく過ごせる様になっています。
- 家庭的な雰囲気の中、利用者本位のサービス(職員と利用者どで相談しながら食事を作る、週3回の入浴等)を行い、介護度・排泄・会話・歩行等の面で多くの改善事例が見られ、週1回の訪問看護師による健康チェックにより、利用者・家族に安心感をもたらしています。
- 市からの要請に応え、介助の困難な人を6名受け入れている等、市と協力関係を築いています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に職員の目に入るよう、事務所、掲示板に掲示。入社時オリエンテーションにて周知している。	昨年運営母体が変わって理念も変わり、理念、行動方針、指針等と多彩になっていますが、月1回の職員会議時に職員全員で唱和して周知徹底を図り、日ごろのサービスで実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しイベントに参加。外出時は近隣の方々へ積極的に挨拶を行う。	自治会に加入し、地域の行事(祭り、流しソーマン、元旦マラソン等)に参加する他、散歩・外出時には近隣の方に挨拶をしています。又地域のボランティア(日本舞踊、ウクレレ演奏等)を受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会イベントや買い物、散歩を通じ近隣の方々への挨拶を行い。外出時は近隣の方々へ挨拶を行いご理解いただけるよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・包括センター・ご家族と情報を共有しイベント・レク・外出先等、参考にさせて頂き役立てている。	会議は2回は実施済みで、今後3月に実施予定です。地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者、職員で開催し、現状・活動報告、ヒヤリハット・事故報告、研修報告、防災訓練報告等を取り上げて話し合い、サービス向上に努めています。	年4回開催する事と実のある会議にするため他施設の管理者や自治会長に出席を求め(再三依頼する事)、意見を貰う事が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の相談等により、ほぼ毎月区役所へ訪問し協力体制を築いている。	施設長は、必要の都度市担当に報告、相談しています。運営推進会議に必ず出席してくれる地域包括支援センター員から意見・情報を貰い、運営に役立てています。市からの要請に応え、介助困難者を6名受入れる等、市との緊密な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し内部研修に取り入れている。玄関施錠についてはご家族の了承を得ている。	交通量の多い通りがある為、家族の了解を得て昼間も玄関の施錠をしています。只ベランダからの出入りは自由で閉塞感はありません。年間研修計画の中で身体拘束について4回取り上げ、職員への周知徹底を図っています。	昨年の4月から身体拘束廃止委員会設置と年4回の開催が義務付けられているので、早急に立ち上げ運営推進会議に合わせる等して開催することが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に、社内研修に取り入れて予防に勤めている。社外研修も積極的に散りいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修があれば積極的に参加。また後見人の話もとても参考になる為、連携を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を丁寧に行い、入居者様・ご家族に理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時や電話などで要望意見を聞いている。意見、要望があった時には出来る限り検討している。	職員は、利用者からは日ごろ、家族からは、訪問時、電話連絡時に意見を聞き、運営に反映する様に努めています。只、運営会社や管理者・職員が変わった事情も重なり、家族アンケートで不満の意見が多数出ています。	家族からの不満の意見を施設長、管理者、職員は、早急に取り上げて話し合い、対策を講じて運営推進会議等で説明・報告(欠席家族には議事録送付を含め)することが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の実施やホーム会議時に意見を吸い上げ反映させている。	施設長は、話しやすい雰囲気を作り、就業時や月1回の職員会議時に職員から意見を聞き、運営に反映させています。又年2回個人面談(人によっては数回)を行い、個人の要望を汲み上げる様にしており、職員から「何でも話しやすい」との声がありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホーム長や管理者の報告を受け、適切に職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームや社内で行う研修の他、個別に社内他施設への研修も実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会に加入しているが、最近では参加出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から本人とコミュニケーションを図り、アセスメントを通じてしっかりと職員と受け入れ準備を行っている。入居時に出来る限り不安を取り除くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時やご家庭に、訪問時に困っていること、要望を聞きながら関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況や状態を把握していきながら相談・検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事メニューについて意見を聞いたり、洗濯物を干すなど、一緒に行ってもらうことによって関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望も十分に理解し、入居状況を報告しながら、ご家族も一緒に支えている関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限をなくし、家族や知人が自由に面会にできるようにしている。時間や人員によろうがあれば送迎もしている。	家族と自宅に帰ったり、法事や墓参りに行っています。又職員と共に昔住んでいた所や馴染みの場所(市役所、津田沼等)までドライブしたり、近隣を散歩する等、これまでの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しやすい環境が作れるように、職員が間に入り、コミュニケーションがとりやすい環境を作っている。座席などにも話しやすい工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設転居等によりサービスが終了しても、ご相談があれば気軽にご連絡いただけるよう声をかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の活動の中で本人の思いや希望、会話などを詳細に記録し、プラン作成などに役立てている。	利用者が自分で考えて選択できるように話しかけています。外出が好きな人が、買い物をしたいのか、行きたい場所があるのか等、表情や言葉から意向を汲み取る様にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活歴や職業歴、趣味、特技などできるだけ把握し、時にはご家族にも話を聞きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の状態や会話の内容などを詳細に記録し日々の変化などを把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員・計画作成・管理者・本人と話し合い作成している。ユニットミーティング等、常に状況把握に努め、現状に合ったプランを作成している。	入居前に本人・家族と面談し、生活歴などの情報を得ると共に、ホームでの暮らし方の意向を聞き取っています。暫定のプランを立て、約1ヶ月後に担当者でカンファレンスを行い、本プランを作成します。3ヶ月でモニタリングしてプランを見直すとともに、急変時にも見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、詳細に記入し職員間での共有に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な状況に対応できるようにサービスの把握、対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事やボランティア、買い物等により、日々の生活にメリハリをつけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、月に2回定期訪問。必要な場合はその他の医療機関を受診。かかりつけ医・専門医療機関との連携も築き支援している。	訪問医が月に2回往診しています。24時間オンコール体制で、急変時は直接医師の指示を仰いでいます。又週1回訪問看護師を利用して、医療関係者と連携を取って、利用者の健康を管理しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期訪問。都度入居者の状態を報告・相談し指示をいただく。ホーム・看護師・かかりつけ医で連携を取り、入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	カンファレンスへ参加し、入院時や退院後に医師やMSWとの連絡がとれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や重度化した際に、週末期に関する説明を行い、施設で対応できる範囲などを話させていただいてる。	今年度は看取りはありませんが、管理者はターミナル研修を受ける等、重度化に対応できる体制をとっています。入居時には本人、家族に「重度化及び看取りに関する指針」を示して、同意を得ています。	利用者の平均年齢が82歳であることから、高齢化・重度化を念頭に置き、今後は医療連携の更なる充実が望まれます。又職員研修やマニュアルの整備等、ターミナルケアについての組織的な体制作りが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変時の対応を内部研修・社内研修にて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・災害用の水分を用意している。	年2回、自主訓練を実施しており、目下職員の緊急時駆けつけ体制を検討しています。消防署立ち合いは、先方の都合がつかない状況です。一連の防火装置・機器は完備し、備蓄も2日分と発電機・大量のおむつを備蓄しています。	年1回災害訓練の実施と備蓄の見直し(数量・内容)、および備蓄管理表作成と非常時持ち出し品(処方箋等)の準備が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーの確保と人格を尊重し声掛けや、対応をしている。	個人ファイル等は事務所の鍵のかかる棚に入れて管理しています。排泄や入浴などの支援では、利用者の羞恥心に配慮し、同性介助に努めています。排泄等で失敗があった時には、周囲に知られないようにそっと対応する等、尊厳を傷つけない様支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を聞き、可能な限り自己決定が出来るよう心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを把握し、出来るだけ希望に沿った生活ができるよう心かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	危険がない限り、服や装飾品は自由。毎日日本人の好みの服を選んでもらい、起床時には整容を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューはご入居者と一緒に考え、準備・調理・後片付けを共同で行っている。	メニューは利用者の意見を反映し、職員とともに買い物に行ったり、調理の下ごしらえや、味付け等、利用者のできる事を行っています。庭の菜園でできた芋やナスなどの野菜が食卓に上がり、会話も弾みます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや、食べやすい形状など、本人の嚥下レベルにあわせ提供している。食事以外にも、お茶やおやつ時間を頻繁に設け、脱水を予防している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、声掛けを行っている。毎日夜間に入れ歯を洗浄剤にて消毒。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が個別の排泄のパターンの把握。可能な限りトイレにて排泄ができるよう誘導している。	排泄チェック表により、トイレの定時誘導および個別支援を行っています。リハビリパンツから布パンツになった人や、尿パッドを使用しなくなった例があり、排泄の自立に努めていることが分かります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師と相談し、排泄のコントロールをしている。毎日朝食後に乳酸菌飲料なども提供し、便秘予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本1日置きとしているが、拒否や体調不良があった場合は足浴等、柔軟に対応している。	週に3回のペースで入浴しています。湯の温度を利用者の好みに合わせる等、きめ細かい配慮があります。拒否のある人には声かけを工夫(トイレから浴室に誘導、鼻歌に合わせて誘導等)しスムーズに入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて、リビングや居室で自由に休んでもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別ファイルで管理し常に確認できるようにしている。変化があった場合にはかかりつけ医に迅速に報告し、指示をいただく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を活かし、役割を持って頂いている。散歩・ドライブなどの気分転換ができるようにつとめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩等、可能な限り外出できるよう心がけている。家族来訪時にも外出を促し、協力をお願いしている。	花見や紅葉狩りなどの年間行事の他に、天気の良い日には近隣を散歩したり、買い物に出かけています。ベランダで外気浴したり、庭の菜園で野菜を収穫する事も楽しみの一つです。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームにて管理しているが、希望されるご入居者には自由にお金を所持していただいている。現在ははない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函や電話の使用については、都度対応させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施錠・照明・エアコンはご入居者が自由に管理できるようにしている。リビングは環境を整え、心地良い空間を作るよう心がけている。	リビング兼食堂は、日当たりもよく、清潔で、ゆったりしており、温度・湿度も調節され、利用者が居心地よく過ごせる様になっています。壁の季節の飾り、手作りカレンダー、行事写真、机に季節の花等、季節感、生活感を感じます。利用者は、歌、体操、トランプ、テレビ鑑賞等で元気に、明るく過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを配置。将棋や囲碁等の趣味活動や話ができる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力自宅で使用していたなじみのある物をもってきていただいている。自宅の延長となるように家族とも相談し、本人の空間を作れるよう努力している。	居室は、エアコン、カーテン、ベッド、クローゼットが備え付けで、適度の広さもあり、清潔で、利用者が快適に過ごせる様になっています。利用者は、居室担当者と一緒に掃除・整理整頓をしています。各部屋様々で、利用者・家族の個性が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに表札を付け、ご入居者がわからない不安を感じないように配慮している。		